

据えた秦野駅北口周辺のまちづくりや、令和9年度の新東名全線開通を見据えた表丹沢スマートインターチェンジ周辺のまちづくりに取り組む。

・これにより、地域のにぎわいを引き出し、安全安心につながるインフラ整備を着実に進めるとともに、新東名の広域利便性を最大限活用した、新たな産業系土地利用と企業誘致促進を支援していきたい。

・コロナ禍を機に急速に進められているデジタル化では、行政サービスへの導入を政策的、戦略的に展開するとともに、自治会など、市民活動におけるデジタル化の導入活用支援や、市内経済の好循環と地域コミュニティの活性化を目的とした電子地域通貨の導入に向けた取組みを進めていきたい。

・また、産後ケア事業の拡充や、公立児童ホームの対象学年の拡大、医療費助成の対象年齢の拡大など、妊娠・出産から子どもたちが社会に羽ばたくまでの切れ目ない支援の充実強化を図り、「女性と子どもが住みやすいまちづくり」を推進する。

・こうしたハード面、ソフト面の様々な取組みを着実に進めながら、引き続き、「表丹沢の魅力づくり」と「小田急線4駅周辺のにぎわい創造」を軸とした、移住・定住人口の増加につながる施策を展開し、魅力あふれる「全国屈指の森林観光都市」の理念化を進めていきたい。

・そして、これからの自治体経営には、地域社会をともに創造する「自治体間協調」が必要だと考える。

・厚木市、伊勢原市、愛川町、清川村との「県央やまなみ広域連携」や、中井町、大井町、松田町との「1市3町広域連携」などの広域行政により、地域共通の資源を生かし、協働して魅力を育み、全国へ発信し、地域全体の発展へとつなげていきたい。

・秦野市は令和7年1月1日に市制施行70周年を迎える。次の時代を担う「はだのっ子」とともに、先人たちのこれまでの歩みを振り返り、ふるさと秦野への誇りと愛着を更に高めながら、輝かしい未来に向かって着実に歩みを進めていきたい。

・しかし、これらの取組みは、財政の健全化を前提としたものでなければならない。

・部局長には、施政方針をしっかりと熟読してもらい、内容を共有したうえで、第1回定例会月会議と新年度に臨んでもらいたい。

・今回は、予算の審議を中心に長丁場の議会となるが、最後まで気を緩めず、万全の準備で、部局間の連携を密にしながら、それぞれしっかりと説明責任を果たしてもらいたい。

・市職員や、市内小中学校でも、コロナやインフルエンザの感染者がみられる。体調管理には十分に留意をしてもらい、職務の遂行と議会への対応を重ねて願います。

2 報告事項

(1) 令和6年3月秦野市議会第1回定例会月会議提出議案等について

[総合政策課・財政課]

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】

問．代表質問を行う議員は決まっているのか。

答．志政会は高橋文雄議員、創和会・市民クラブが福森真司議員、ともにつくる秦野は古木勝久議員、公明党は中村英仁議員、みらいを変えるが大塚毅議員と聞いている。

(2) 令和6年能登半島地震における本市の対応状況について

[危機管理監・上下水道局長・消防長]

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】

問．避難者の状況や、ペット避難についてなど、避難所で気づいた点を情報提供してほしいがどうか。

答．1月に派遣した職員は、避難所内の業務に従事しなかったため、避難所の状況で報告できる内容はないが、今後も派遣を予定しており、後日報告書を作成し報告する。また、状況が落ち着いてきた頃に、被災地の職員と情報交換もしていきたいと考えている。